

会議名	開催地	開催日	参加国・機関及び人数	出席者（報告者）	概要
ISO/TC172/SC7 国際会議 及び ISO/TC172/SC7/WG9 コンタクトレンズ	中国 上海	2015年5月11日 ～ 5月15日	13カ国（Australia、 Belgium、China、France、 Germany、Italy、Japan、 Netherlands、Saudi Arabia、 Sweden、Switzerland、UK、 USA） 103名	山本 貴志 株式会社メニコン	ISO 18369-1～-4の議論。4規格についてDIS投票を行うことを決議。ISO 19045-2の議論。PWI登録することを決議。ISO 18189の議論。DIS投票を行うことを決議。ISO/TS 19979に関する議論。WD作成を行うことを決議。
IEC/TC72（自動電気制御装置） 国際会議	ポルトガル、リスボン（シーメンス社）	平成27年4月13日～17日	ドイツ、英国、イタリア、オランダ、デンマーク、スイス、米国、カナダ、日本の計9か国 22名	田伏 弘幸 （日本ガス機器検査協会 認証技術部）	(1) 安全関連ソフトウェアのダウンロードについて オーソライズされていない人間が、安全関連ソフトウェアを書き換えることがないように防護すべきとの課題について議論された。ドイツから、パリティチェック（データの伝送や記録に際して、データの誤りを検出する方式）を実施すればよいという提案があった。 日本から、国内対策委員会で提案された規格の追記を、提案/説明し、承認された。 (2) IEC 61508の機能安全のIEC/TC72規格群への導入 機能安全の規格の展開が各TCで実施することになっている。 しかし、IEC 61508(IEC 62061)の安全度水準（SIL）の最高レベルであるSIL4であっても、TC72で要求する安全レベルには、より厳しい安全性が求められているという合意の下、審議は展開された。 リレーの故障モードの一つを省略できる条件についての提案がドイツからあったが、危険側故障確率の考え方をTC72の規格群で使用できる水準にするように検討することとした。
ISO/TC29（工具）及びTC29/WG34	フランス国パリ市	2015年4月16日～17日	7か国29名（ISO/TC29） 9名（TC29/WG34）	堺 弘司（（一社）日本工作機器工業会）	ISO/NP 16084 Balancing of rotating tools and tool systems に対する投票結果については、決議としては残らなかったが、TC29/WG37での実質審議を行うことを確認した。 ISO/WG34 ISO 13399のMaintenance Agencyのメンバーについて議論された。
ISO/TC29（工具）/WG37（回転工具のバランス）	ドイツ国フランクフルト市	2015年5月4日～5日	3か国13名	堺 弘司（（一社）日本工作機器工業会）	ISO/NP 16084 Balancing of rotating tools and tool systems に対する日本コメントについて審議を行い、ほぼ採択されることとなったが、何点かは、原案作成者による修正案の作成となり、修正版をDISとして投票することを決定。
IEC/TC86（光ファイバ通信）/SC86B（光ファイバ接続デバイス及び受動部品）/WG4（試験測定法）、WG6（光ファイバ接続デバイス及びWG7（光受動部品）	アヌシー（フランス）	2015年4月13日～4月17日	フランス、英国、日本、米国、スイス、カナダ、スウェーデン、ドイツ、オランダ、ベルギー、韓国、イタリア、イスラエル、 42名	日本電気株式会社 渋谷 隆	WG4：IEC 61300-2-4のCCを審議し、CDV回覧を決定、光アダプタ取付け試験のNP案を提案しNP回覧を決定。IEC 61300-3-7の改版案が説明され、CD回覧を決定。IEC/TR 62627-08のCCを審議し、DTR回覧を決定。JIS活動をプレゼンし、IEC 61300-3-50の正誤表発行を決定。 WG6：IEC/TR 62627-01のCCを審議しDTR回覧を決定。IEC 61753-1のCCを審議し、2CD回覧を決定。IEC 61754-4-100及びIEC 61754-6-100のRVCを審議し、FDIS回覧を決定。 WG7:IEC 61202-1の改版案を提案し、改版CD回覧を決定。IEC/TS 新規文書のNP案を説明し、NP回覧を決定。IEC 61753-381-2、IEC 61753-381-6及びIEC 61753-382-2のRVCを審議し、それぞれFDIS回覧を決定。
IEC/TC 56（ディペンダビリティ）	フィンランド国	平成27年5月4日～平成27年5月11日	7カ国 14名	原田 文明	・IEC60812(FMEA)の改定・CD検討作業に参画し、我国のコメントやAnnexを反映したCD作成を決

ティ) WG2 国際会議	ヘルシンキ市	成 27 年 5 月 6 日	IEC TC56 の各国委員及びプロジェクトチームメンバー	株式会社 富士ゼロックス アドバンステクノロジー 評価技術開発統括部 品質保証&安全環境評価部 (IEC/TC56 委員、TC56 専門委員会幹事及び国内WG2 主査)	定。 ・ IEC61014 (信頼度成長) の改訂作業に参画、次回会議で MT の延期提案をすることを決議。 ・ IEC60300-3-1 (信頼性管理の技法一覧) の改訂背景を確認、改訂作業を合意するとともに日本からの委員参画を検討することにした。 ・ IEC60300-3-5 (統計的試験原則) の修理系及びシステムへ拡張するための改訂を行うことを合意。これについても国内でのメンバー登録検討を約束した。
IEC/TC56 WG3	フィンランド国 ヘルシンキ市 SESKO (フィンランド規格協会)	2015 年 5 月 4 日～5 月 8 日	IEC/TC56 13 名 (8 か国) ISO : 6 名 (4 か国)	後藤 博之 FDK 株式会社 システム電池事業部 ビジネス推進部 担当部長	・ IEC 62960 Dependability reviews during the life cycle 審議 (出席者がプロジェクトリーダー) 今回の審議で本規格内容に関する一定の理解と課題を共有。10 月の全体会議後 CD1 の予定。 ・ IEC 62775/TS Dependability and financial processes for implementing asset management systems 審議 ・ IEC 62402 Obsolescence management 改正審議 ・ IEC/ISO 31010 Risk management - Risk assessment techniques 改正審議 ・ IEC 61882 HAZOP Studies 改正審議 ・ IEC 60300-3-3 Life cycle costing 改正審議 ・ IEC 60300-3-10 Maintainability 改正審議
ISO/TC 173/SC 7 総会及び ISO/TC 173 総会	デンマーク国 ペンハーゲン市	2015 年 5 月 20 日～22 日	SC7 総会 参加国 4、出席者 8 名 TC 173 総会 参加国・機関 13 出席者 33 名	(公財) 共用品推進機構 松岡光一 支援技術開発機構 山内繁	1) ISO/TC 173/SC 7 総会 ・ 活動報告 ・ WG1、WG2 解散の決議 ・ 日本提案予定の AD 製品の適合性評価のプレゼン 2) ISO/TC 173 総会 ・ ISO/TC 173/SC 7 からの活動報告 ・ 日本提案予定の AD 製品の適合性評価のプレゼン ・ ISO/TC 173 のタイトル、スコープについての議論
I S O / T C 2 8 2 / S C 3	カナダ バンクーバー市	2 0 1 5 年 5 月 2 7 日	アメリカ、カナダ、フランス、イスラエル、シンガポール、中国、韓国、日本の 8 ヶ国 国土交通省、国土技術政策総合研究所、日本規格協会、京都大学、民間団体等から計 1 6 名参加	水 ing 株式会社 石川英之 一般財団法人 造水促進センター 中村裕紀	(1) I S O / W D 2 0 4 6 9 (水質シンボル) の議論。6 月 3 0 日までに修正版を回付し、WGメンバーからのコメントを 2 ヶ月間募集することとなった。また、カナダと中国の協力のもとに、再生水利用に係る健康リスクだけでなく環境リスクの要素も含むことで合意した。 (2) I S O / W D 2 0 4 6 8 (性能評価) の議論。6 月 3 0 日までに修正版を回付し、WGメンバーからのコメントを 2 ヶ月間募集することとなった。 (3) 今後の会議を以下のスケジュールで開催することとなった。 第 3 回会議を 2 0 1 5 年 1 1 月に中国北京市で行う。 第 4 回会議を 2 0 1 6 年 5 月もしくは 6 月にアメリカ合衆国で行う。 第 5 回会議を 2 0 1 6 年 1 0 月もしくは 1 1 月にイスラエル テルアビブ市で行う。
ISO/TC282	カナダ国バンク	平成 27 年 5 月 25 日(月)	日本、カナダ、中国、イスラエ	(一社) 膜分離技術振興協	5 月 27 日の SC3 会議では、ISO/AWI 20469 及び ISO/AWI 20468 を議論した。今回の会議で決議され

	ーバー市	～5月29日(金)	ル、フランス、アメリカ、韓国、シンガポール 全体で40～50名が参加。	会 糸川 博然(排水・再利用委員会) 鮫島 正一(株式会社明電舎)	た修正案をもとに、2015年6月30日までにWDを修正し、2ヶ月間のWGコンサルテーションを受けるために回付することとなった。 同日、当協会から膜技術に関するプレゼンを実施した。
IEC/TC61/SC61B	アメリカ、ワシントンD.C.	2015年6月8日	ドイツ1名、中国1名、アメリカ2名(FDA1名オブザーバ参加、中央事務局1名)、スイス1名(国際幹事)、日本4名(内1名国際議長)、計10名 (FDA: Food and Drug Administration)	佐々木 宏(国際議長) 基準認証イノベーション技術研究組合	電子レンジの安全性を規定したIEC規格(IEC 60335-2-25: 家庭用電子レンジ, IEC 60335-2-90: 業務用電子レンジ)の規定文について、日本から試験方法の解釈などを明確化するための文言追加等の提案があり審議を行った。IEC 中央事務局より国際会議において非英語圏の参加者にも理解できる表現を推奨する旨方針説明があったこともあり、日本提案のDC文書(6件)は全て可決としCDVに進めることとした。
ISO/TC 172/SC 9 及び Laser World of Photonics	ドイツ国、ベルリン市及びミュンヘン市	2015年6月17日～22日	20名 (5ヶ国)	磯野 秀樹 富士通オプティカルコンポーネンツ マーケティング部シニアエキスパート	<WG1/WG6/JWG1> 審議文書7件、改訂文書2件 IEC 60747-5-4 半導体レーザー SC47Eへ改定案を提案 ISO 11145 ビーム楕円率 審議 ISO 13682-1/-2 ウルトラレーザーパルス 審議 <WG4> 審議文書2件 ISO 11810 Primary ignition and penetration 審議 <WG7> 審議文書4件 ISO 17901-1/-2 ホログラム測定方法 審議 ISO 11807-1/-2 集積光学 審議 <その他> 日本よりIEC TC86SC86C/WG4で審議予定のPIC(光集積回路)パッケージの活動状況について紹介 <採択> Closing Plenaryで27件の議決が採択
ISO/TC 281 WG 1	フランス AFNOR 会議室	2015年6月15日	中国、韓国、日本、英国、仏国、米国 参加人数 合計20名	土肥 正男	フランスでの会議の前にオランダを訪問し、5団体を訪問しオランダにTC281のメンバーにPメンバーとして参加してもらうため、ファインバブル技術とTC281の活動について説明を行った。各団体とも非常に強い興味を示し、オランダ規格協会NENに働きかけを行ってくれるとの約束を取り付けることができた。 パリで行われたISO/TC 281 WG1(用語を含む一般原則)会議では、ファインバブル技術に関する基本的な用語の定義や、計測規格と応用規格すべてに共通する事項について一般原則として規定するワーキンググループである。パリの会議では、プロジェクトとなっている用語や定義についての審議を進めたが、英国よりファインバブル技術に関する用語追加の要望が多数出された。それに対して日本側は、現時点における必要最小限の用語規格として早期に国際規格化を完了させることを主張した。 最終的に、折衷案として英国提案の用語を文書に掲載するものの、反対があれば削除することで合意を得た

ISO/TC 281 WG 2	フランス	2015年6月10日	中国、韓国、日本、英国、仏国、 米国 参加人数 合計 19名	(株)島津製作所 島岡 治 夫	ISO/TC 281 WG 2はファインバブルの計測、特性評価に関する規格を審議している。本会議では日本提案である“Fine bubble technology –Sampling and sample preparation”サンプリングと前処理」を NP 提案化することの理解を得ることを目指していたが、「ファインバブルの安定性」や、「比較的径の大きなバブル（マイクロバブル）の取扱」、「コンタミ成分の除去」など、本来は本規格案では取り扱わない内容についてまで、意見交換が過熱してしまう事態となり、規格案の内容に関する具体的な審議はなかなか進まなかった。しかしながら、議論が発散する原因が見えてきたので、これを踏まえて、今後は、説明方法の工夫（規格案が対象としている領域の明確化とそのイメージの共有）と、コンビーナとの十分な事前打ち合わせを行い、規格化の促進を図りたい。
ISO/TC 281 WG 2	フランス	2015年6月10日	中国、韓国、日本、シンガポール（Web参加）、英国、仏国、 米国 参加人数 合計 19名	西日本高速道路(株) 長井 正 桜美林大学 原田 節雄	ISO/TC 281 WG 3はファインバブルの応用技術の規格について審議を行っている。今回のパリ会議では、3つの日本提案を行ったが、その内の一つであるファインバブルを利用した鋼構造物の洗浄については、日本では広域に利用が進んでいる分野で実績を積んでいることもあり、NP提案化の理解を得ることを目標としていた。しかし、直前に行った韓国案が深くていい要素が多くあり、その議論の流れにのり、日本案についても、本来なら NP 提案後に審議しても十分である内容について不確定要素が多いと指摘されてしまい、NP提案化は10月の韓国でのTC会議以降に持ち越しとなってしまった。しかしながら、韓国提案に比べて、完成度が高い文書であるという評価は、すべてのWG3メンバーから得ることができ、10月のNP提案化に向けての重要なステップとなった。
ISO/TC 69/ SC 6、SC 7、SC 8 国際会議及び関連WGへの出席	中国 大連	6月22日～26日	9ヶ国（アメリカ、イギリス、 インド、中国、ドイツ、日本、 マレーシア、フランス、南アフリカ）	遠藤 智之（一般財団法人 日本規格協会）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ISO 5725-1,ISO 5725-2,ISO 5725-4 は work programme(20.00)、ISO 5725-2,ISO 5725-3 は PWI (00.00) として登録し、改訂作業を進めることとなった。SC6 セクレタリーは、本改訂作業にあたり協力するエキスパートの募集を行うこととなった。 ・ ISO/DIS 18404 は、FDIS 段階を省略して発行段階へ進むことが決定した。 ・ ANOVA に関する新規プロジェクトを進めることに決定した。 ・ ISO/DIS 16355-1 は、FDIS 段階お省略して発行段階へ進むことが決定した。
ISO/TC 69/ SC 8 国際会議及び SC 8/WG 1,WG 2,WG 3	中国 大連	6月22日～26日	5ヶ国（アメリカ、イギリス、 インド、日本、南アフリカ）・ 12名	金子 憲治（有限会社サー ビス経営研究所）	<p>ISO/TC 69/SC 8 日本代表エキスパートとして ISO/TC 69 国際会議に出席し、審議に参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ISO / DIS16355-1 の投票結果及び修正が承認され、FDIS 段階を省略し、発行段階へと進むことが決定した。 ・ ISO/AWI 16355-2, ISO/AWI 16355-3, ISO/AWI 16355-4, ISO/AWI 16355-5, ISO/AWI 16355-8 の議論を行い、ISO/AWI 16355-2, ISO/AWI 16355-4, ISO/AWI 16355-5 については8月末までに、ISO/AWI 16355-3 については7月31日までにプロジェクトリーダーから原案を国際幹事まで送付することとし、その後、CD投票を行うこととなった。 ・ ISO/TC69/SC8 は、DFSS 規格の開発のために ISO / TC69/ SC7 を支援することを提案した。
ISO/TC 69/SC 7 国際会議及び SC 7/WG	中国 大連	6月22日～26日	7ヶ国（アメリカ、イギリス、 インド、中国、デンマーク、ド イツ、日本、）・19名	石山 一雄(ISO/TC 69/SC 8・SC 7 国内委員会副査)	<p>ISO/TC 69/SC 7 日本代表エキスパートとして ISO/TC 69 国際会議に出席し、審議に参加した。主な決議は以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ISO/TR 29901:2007 の見直し、IS 化に関して、P メンバー国に、プロジェクトリーダーの公募を行うこととなった。 ・ ISO/DIS 18404 は、FDIS 段階を省略して発行の手続きに移行することとなった。

					・ANOVAに関する新規プロジェクトを進めることに決定した。
ISO/TC167/ WG 3	BSI (British Standards Institute) London UK	2015年5月5日～7日	ノルウェー：1名 (TC167 Chairman) , 米国：3名 (内、1名が WG3 の Leader) カナダ：2名、英国：1名、ドイツ：1名、フランス：3名、チェコ：1名、日本：2名	原田 幸博：JSSC 国際基準整合化WG主査 (千葉大学/教授) 佐々木栄一：JSSC 国際基準整合化WG委員 (東京工業大学/准教授)	<p>(1) WD(Working Draft)についての審議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5.3.1 Structural products の General について、全ての material をアンブレラコード的に 使用可との扱いにした。 ・2.4 Welding condition について、直接的な表現は止め定性的な表現とした(溶接者は ISO 14731 に基づき・・・・・・)。 ・8.1 Joint type について、どこにどのように使うかは設計の事項であり、施工・製作の事項ではないとの指摘から preloaded joints, non-preloaded joints は削除された。 (日本の小規模建物へのボルト接合の適用に関する Note も削除となった) <p>(2) WD(Working Draft)に対する日本の主張に対する審議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JIS 規格に無い ISO 規格の取り扱いについて、4. Qualification, specification and documentation の 4.2.1 General の冒頭に「equivalent な各国の規格が使える」ように修正された。 ・日本の高力ボルト規格(JIS B1186)およびトルシアボルト規格(JSS II 09)は参考文献となった。(但し、Annex の table には残された) <p>(3) WD(Working Draft)の次段階の CD(Committee Draft)へと進めるか否かの提案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在審議中の Draft(WD)を次段階の CD(Committee Draft)へと進めるか否か(CD ballot)の提案が Allen Sindel 氏(WG3 Leader) より有り、了承された。 ・CD ballot は「Close of voting / comment period」を 10月1日とすることが決定され、今後はこのスケジュールに基づき、実施することとなった。 <p>※日本側の主張は概ね認められているものの、CD ballot の対象となっている「CD 17607」については各 TG 毎に精査し、その結果を取り纏めて CD ballot へ反映させる予定にしている。</p>
ISO/TC 127/SC 3/WG 5-ISO 15143 施工現場情報交換	ドイツ国フランクフルトアムマイン市ドイツ機械工業連盟 VDMA 会議室	平成 27 年 5 月 28 日 (木)、同 29 日 (金)	米国 5 名 (Deere 社 4 名、Vermeer 社 1 名)、ドイツ国 1 名 (Wirtgen 社)、名、日本 3 名 (日立建機 1 名、コマツ 1 名、日本建設機械施工協会 1 名)	西脇 徹郎 (一般社団法人 日本建設機械施工協会)	日本担当で作成の ISO 15143 第 1 部及び第 2 部 (施工現場情報交換) に対して、米国が機械管理専門家団体 AEMP の団体規格に基づき機械管理に関する機械側のテレマティクスデータを機械製造者側のサーバから機械使用者側にネット配信することに関する標準化を第 3 部として提案、5 月の会議では、第 3 部で提案されたデータ項目と既存の第 2 部のデータ辞書のデータ項目との整合を図ることとし、また、従来、機械製造業者の使用者困り込み的に扱われていた機械の故障診断データなども標準化してオープンシステムで扱うこととなり、セキュリティ面の懸念もあるが、早急な標準化を目指して ISO 案文が ISO の規定に従って整次第 DIS 投票に進めることとなった。(後記：その後、とりあえず TS として早急な発行を目指す方向に転換しつつある。)

IEC/JWG	パリ (AFNOR) /フランス	2015年8月28日	IEC/TC64、TC69、SC23H、ISO/TC22、ISO/TC22/SC37,SC38 の代表者、計17名	高橋一樹 (ヤマハ発動機) ISO/TC22/SC38 議長代理として	同会議は、IEC/SMB の要請により、電動車両の充電に関する安全要件について、関連 TC、SC 等の代表者が集まり、協議結果を共有するとともに、関連会議体に対する提言を発信するための会議体で、今回は第5回目。 今回は、充電システムの感電保護クラスの定義、保護接地と機能接地の解釈、などについて、JWG 議長 (TC64 議長) の見解が相互確認された。また、日本が提示した、充電システムに想定される様々な感電保護の構成と保護接地あるいは等電位接続の要否に関する討議資料については、JWG 議長と日、独、米、仏のボランティアメンバーが共通見解を書き込んだ図を完成させることとなった。 その他、小型充電器に関する TC61 と TC69 間のコンフリクトについては、次回の JWG (10/19@フランクフルト) に TC61 を招いて協議すること、ISO18246 については、IEC61140 を参照して改善を検討すること、などの提言を決定して閉会となった。
IEC/JPT61851-3、 IEC/PT62196-4	フランクフルト (DKE) /ドイツ	2015年8月31日～9月4日	スイス、ドイツ、カナダ、US、オランダ、日本、計11名	高橋一樹 (ヤマハ発動機) ISO/TC22/SC38 議長代理として	IEC61851-3 は、電動車両用の充電システム規格である IEC61851 シリーズの Part3 として、小型電動車両用の充電システムに特化した規格内容となっている。 今回は、8/28 の IEC/JWG 会議結果をうけて、Part3-1～3-7 のスコープの見直しが行われ、一通りの修正作業が完了した。その他本文の修正も含め、各規格ドラフトはあらためて 3rd.CD を発行して、9月末ごろから3ヶ月間のコメントングを経て、2016年中には順次 DTS へ移行される予定。 IEC62196-4 (小型電動車両用充電コネクタ) には日本が提案する DC 充電コネクタも含まれていたが、今回の会議で同規格のコンビナから、充電通信を接触型の接続に依存するコネクタは感電安全のリスクを回避できない、と根拠不明確な理屈で一方向的に削除する方針が示されたため、日本としての対抗措置を検討する必要がある。
IEC TC112(電気絶縁材料の評価と認証)	スウェーデン、キスタ (KISTA)	2015年8月31日～9月4日	13か国、42名	坂野 富明 (ジャパニーズマテック)	TC112 は、電気絶縁材料の評価方法に関する規格を対象とし、耐熱性評価、放射線劣化評価、絶縁耐力評価、絶縁抵抗評価、トラッキング性評価、絶縁システム評価、統計手法およびその他絶縁評価試験を対象にしている。本会議において日本から以下の議事が提案された。①PWI/TR112-1 (TI 表示方法)、②60216-7-2DTR (LCP の TGA による耐熱指数算出法) ③62332-3DTI(ハーメチックモータチックモータ用絶縁材料評価方法)等；その他全体的な進捗を以下に示す。 1) 規格化されたもの；IEC TS 60216-7-1 (TGA 法による耐熱性指数算出法)、IEC TR 61857-2 (耐熱性評価規格の選定方法) 2) FDIS になるもの；IEC61251,62631-3-1 (体積抵抗測定法)、62631-3-2 (表面抵抗測定法)、62631-3-3 (絶縁抵抗測定法)、3) CDV ステージになるもの；IEC62631-3-11、62631-3-4,62631-2-1、4) DTS ステージになるもの；62332-3。 以上
IEC/TC109/MT1,MT2,JWG4	ドイツ フランクフルト	MT1 2015年9月9日、10日 (午前) MT2 2015年9月10日 (午後) JWG4 2015年9月11日	MT1 13名 MT2 15名 JWG4 12名 フランス、ドイツ、オランダ、日本、アメリカ、デンマーク、イタリア、スウェーデン	住谷淳吉 (一般財団法人電気安全環境研究所)	(1) MT1 (IEC 60664-1 の改正案審議) IEC 60664-1 (低圧機器絶縁協調：通則) の構成を大幅に変更することとなり、その改正案作成について検討した。審議が途中で終了し、来年のプレナリ会議に向けて、12月にイタリアのミラノで2日間の継続審議することとなった。 (2) MT2 (IEC60664-3 の改正案審議)

			(JWG4のみ)		<p>IEC 60664-3 (コーティング、ポッティング、モールディング) の改正案の検討、特に引っ掻き試験の適用の見直しを行い、CDV登録することを決議した。</p> <p>(3) JWG4 (IEC/TS 62993 の制定案審議)</p> <p>IEC/TS 62993 (交流 1000V~2000V 及び直流 1500V~3000V の絶縁協調) の WG 案を検討し、CD登録することを決議した。</p>
ISO/TC 22 WG6	アメリカ、トロイ	2015年09月23日~25日	5カ国15名	<p>自動車技術会パワーエレクトロニクス分科会</p> <p>高電圧コネクタ試験方法小委員会</p> <p>矢崎部品(株)EVシステム開発設計センター</p> <p>堀 啓一</p>	<p>韓国提案のISO/WD20076「電気自動車用高電圧コネクタの試験方法」の2ndバージョンの審議。高電圧、大電流化に伴うコネクタの大型化に関連した試験条件や判定基準の決定が難航し、次回の会合の開催を2ヶ月延長し、電話会議で事前審議を行う事で合意した。</p>
IEC/TC 8 国際会議	イタリア ストレザ	平成27年9月28日~10月2日	12ヶ国40名	高尾 登(東京電力株式会社)	<p>1) IEC/TC8/MT1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IEC60038 (IEC標準電圧) の改定審議 ・1CDに対する各国からのコメントを審議し、2CDを作成することとした。 <p>2) IEC/TC8/SC8Aプレナリ会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スコープとタイトルの変更を決議 ・AHGからの報告、新WG提案を審議 ・日本の状況についてプレゼンを実施。 <p>3) IEC/TC8プレナリ会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各WG・MT・PTからの活動報告。WG2の解散を決議 ・関係委員会からの報告。リエゾンメンバーを議論。 <p>・報告者よりIEC/ACTAD (送配電諮問委員会) に関するプレゼンの実施</p>
IEC/TC 8 国際会議	イタリア ストレザ	平成27年9月29日~10月2日	12ヶ国40名	菊田 政雄(東京電力株式会社)	<p>1) IEC/TC8/SC8A/AHG1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギー系統連系時におけるグリッドコード遵守評価のTSを作成することとした。 ・日本の状況についてプレゼンを実施。 <p>2) IEC/TC8/SC8A/AHG2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風力およびPVの出力予測に関するTRを作成することとした。 <p>3) IEC/TC8/SC8Aプレナリ会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スコープとタイトルの変更を決議 ・AHGからの報告、新WG提案を審議 ・日本の状況についてプレゼンを実施。 <p>4) IEC/TC8プレナリ会議</p>

					<ul style="list-style-type: none"> ・各WG・MT・PTからの活動報告。WG2の解散を決議 ・関係委員会からの報告。リエゾンメンバーを議論。 ・日本からIEC/ACTAD（送配電諮問委員会）に関するプレゼンを実施
IEC/SyC Smart Energy/WG6国際会議 およびIEC/TC8国際会議	イタリア ストレーザ	平成27年10月1日～10月2日	12ヶ国40名	加藤 辰也（東京電力株式会社）	<p>1) IEC/SyC Smart Energy/WG6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IEC62559シリーズの3rdCDに反映する内容について議論。 ・2ndCDのコメント期限の延長をSyCのオフィサーへ進言することを決定。 <p>2) IEC/TC8プレナリ会議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各WG・MT・PTからの活動報告。WG2の解散を決議。 ・関係委員会からの報告。リエゾンメンバーを議論。 ・日本NCよりIEC/ACTAD（送配電諮問委員会）に関するプレゼンの実施
ISO/TC282 Water Reuse	中国・北京 / 清華大学	2015年11月2日～6日	中国、カナダ、韓国、マレーシア、イスラエル、日本 約60名	一般社団法人膜分離技術振興協会 豊原大樹	<p>SC2 Urban Reuse においては、中国の提案した3規格（再利用システムの設計、再利用システムのマネジメント、安全性評価）はすべてCDドラフトとして回付されることとなった。</p> <p>SC3 Risk Performance Evaluation においては、日本の提案した3規格ともCD/WDを再度発行することとなった。再生水シンボル、健康リスク評価は11月30日までに修正、2か月のコメント期間へ。性能評価は、12月15日目標にTV会議等でドラフトを再構築。1月15日目標に回付し2か月間のコメント期間となる。また健康リスク評価規格は対象を非飲用水を対象とすべくタイトル変更となった。</p> <p>SC3 WG2会議において、提案準備中の膜規格について紹介した。今後のNWIPの提案は、ISO/WD20468性能評価規格の動向に応じてなされる</p>
ISO 26000 PPO SAG	スウェーデン、ストックホルム	2015年10月21日	ISO 26000 PPO SAG メンバー35名（3名は電話会議で参加）	富田秀実（LRQA）	<p>ISO26000とOECD, UNGP, UNCGとのリンケージ文書の進捗報告。</p> <p>ISO26000教育ツール開発の状況報告とフィードバックへの対応方針の議論。</p> <p>ISO26000の次回システムティックレビューに関する時期。結論は予定通り2017年に開始することとなった。</p> <p>次回PPO会合：2016年4月電話会議、9月以降に会議（時期は電話会議で決定）。</p>
IEC SC47A WG2 会議 IEC SC47A Plenary 会議	ベラルーシ共和国 ミンスク市	2015年10月7日～8日	IEC SC47A WG2: 4カ国8名参加 IEC SC47A Plenary: 5カ国12名参加	土居 直史（ルネサスシステムデザイン株式会社）	<p>1) SC47A WG2: IEC62433シリーズ(半導体EMCシミュレーションモデル)の審議文書のStatusを確認。IEC 62433 Part2 および Part3 はCDVを2015/11/20投票締め切り。IEC 62433 Part4 はFDISを10/9までに提出。IEC 62433 Part6としてModels of Integrated Circuits for Pulse Immunity behavioural simulation - Conducted Immunity modelling を検討、次回2016年5月の会議でフランスからNWIPが提案される。</p> <p>2) SC47A Plenary: WG2(EMCシミュレーションモデル), WG7(3DIC), WG9(測定法)のStatusおよび今後のアクションを確認。また、TC91/TC40/SC47Aのリエゾンを検討し、関連案件が提出されればAdvisory Groupを立ち上げて審議を進めることで了承された。</p>
第27回ISO/TC25 preliminary 会議 (WG会議)	イギリス（ロンドン）	2015年10月6日～10月9日	10か国（12名）	室蘭工業大学 清水 一道 教授 日本鑄造協会 伊藤 賢児	<p>決定事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Mr. Malcolm McNaughtonに引き続き2017年まで議長を委任する。 ・ISO 946-1975は廃止する。 ・ISO 9147-1987は廃止しない。

					<ul style="list-style-type: none"> WG3の名称を「Microstructure of Cast Iron-Part 3 Matrix structures」に変更する。 ISO1083の完成は9か月延長する。 ISO 16112-2001 <ul style="list-style-type: none"> a) この Revision は DIS として開始する。 b) このプロジェクトは WG10「Classification: Compacted (vermicular) graphite cast irons」とし、プロジェクトリーダーは Dr. Steve Dawson とする。 以下の委員会に代表を送り、情報を得る。 <ul style="list-style-type: none"> Mr. Ingo Steller (DIS) : TC5/SC10 Ms. Maria Pele : TC17/SC Mr. Ingo Steller (DIS) : TC213 (New) 以下の委員会との連絡を廃止する。 <ul style="list-style-type: none"> ISO/TC 10/SC6 ISO/TC 123/SC2 <p>ISO/TC153</p>
ISO/IEC JTC1/SC17/WG8,TF2,TF3 国際会議	オーストリア国 ウィーン市	2015年9月21日～25日	10ヶ国、総勢35名	金子良明 富士通セミコンダクター株式会社 システムメモリ事業部 (国内WG8幹事)	<p>(1) TF2 会議</p> <ul style="list-style-type: none"> FWTをApplication毎に決め、より細かい時間指定する日本からの提案は継続審議となる。 FDT開始点の新たな測定方法の提案があり、既存方法の結果と比較検証してからCDとすべきとなる。 適合性試験を行うLabから、試験用PCDの出力波形を確保するための提案がなされた。 <p>(2) TF3 会議</p> <ul style="list-style-type: none"> テスト仕様の範囲と必要性を議論し、プロトコル試験を追加することに決まる。 高速化の検討について日本から提起した。各国からの意見を集約した概要がまとまった。 <p>(3) WG8 会議</p> <ul style="list-style-type: none"> NFCから、Vloadの試験条件を統一欲しいと要求あり、4.5Vに統一を進めると回答した。 投票案件のコメント処理(8件)を行い、4件のNew Amendmentを進めることになる。
ISO/IEC JTC 1/SC 17(カード及び個人識別)/WG 4(端子付ICカード)会議	オーストリア・ウィーン	2015/9/21～2015/9/25	6ヶ国・17人	山田真生 大日本印刷(株) 情報ソリューション事業部 ICカードソフト開発本部	<ul style="list-style-type: none"> ISO/IEC 7816-9 : WD8 審議完了。CD 投票へ。 ISO/IEC 7816-11 : CD2 審議完了。CD3 作成へ。 ISO/IEC 7816-15 : DIS 審議完了。FDIS 投票へ。 ISO/IEC 18328-1 : DIS 審議完了。IS 発行へ。 ISO/IEC 19286 : WD5 審議完了。CD 投票へ。 ISO/IEC 7816-4 高速化拡張 (複数レコード読み出しコマンド) : 日本提案。WG4 から SC17 への NWIP とする旨を合意した。 ISO/IEC 7816-4 高速化拡張 (タイムアウト管理) : 同上 ISO/IEC 18328 テスト規格 : 同上 ISO/IEC 7816-3&10373-3 矛盾懸念解消 : 10373-3 に正誤票を発行するとして合意した。 SC27/WG5 との情報連携 : プライバシーを保護した ID 管理の手法を SC27/WG5 へ提出すべく合意した。

ISO/IEC JTC 1/SC17/WG1 ウィーン国際会議	ウィーン（オーストリア） Austrian Standards Institute	9/28～9/30	25名（英2、米5、仏4、独6、中1、ニュージーランド1、日本4）	辰 甚太郎（大日本印刷株式会社）	主要議題の一つとして ISO/IEC 24789 シリーズの「カード耐久性」についての審議がなされた。 ISO/IEC 24789-1 において、仏よりシーケンス試験を実施した結果の報告と、試験の選択方法についての提案があった。日本がこれまで先んじて試験を実施し多大な貢献をしてきた分野であり、今後も仏が提案している試験の選択方法について内容を精査し日本としての対応を検討していく必要がある。 ISO/IEC 24789-2 において、日本より表面磨耗試験の新しい提案をおこなった。高い再現性が期待され、各国より関心が示され今後も継続し情報提供していく必要がある。各国からも活発な試験提案がなされており、適宜内容を精査し日本としての対応を検討していく必要がある。
IEC PC 118 WG 1/WG 2 会合	アメリカ合衆国バージニア州ロズリン市 NEMA コンファレンスセンター	2015年9月24日～25日	米国（8名）、中国（8名）、スイス、英国、インド、日本（各1名）	正畑 康郎 （株）東芝 研究開発統括部 技術企画室	・ SEP 2.0, OASIS EI, OpenADR 2.0b の IS 化に向けたコメント収集に対する米国応答が審議され、ほぼ原案通り国際回覧されることとなった。 ・ OASIS EI に使用された "62746-10-2" が IEC/TC57/WG21 で使用予定で重複している問題につき、TC57 公式リエゾンとして WG21 で使用予定であることを強く主張。結果、PC118 側が諦める形で決着した。 ・ OpenADR CIM アダプタ審議は順調に進捗中。
IEC SC47A WG2 会議 IEC SC47A Plenary 会議	ベラルーシ共和国 ミンスク市	2015年10月7日～8日	IEC SC47A WG2: 4カ国8名参加 IEC SC47A Plenary: 5カ国12名参加	土居 直史（ルネサスシステムデザイン株式会社）	1) SC47A WG2: IEC62433 シリーズ(半導体 EMC シミュレーションモデル)の審議文書の Status を確認。 IEC 62433 Part2 および Part3 は CDV を 2015/11/20 投票締め切り。IEC 62433 Part4 は FDIS を 10/9 までに提出。IEC 62433 Part6 として Models of Integrated Circuits for Pulse Immunity behavioural simulation - Conducted Immunity modelling を検討、次回 2016 年 5 月の会議でフランスから NWIP が提案される。 2) SC47A Plenary: WG2(EMC シミュレーションモデル), WG7(3DIC), WG9(測定法)の Status および今後のアクションを確認。また、TC91/TC40/SC47A のリエゾンを検討し、関連案件が提出されれば Advisory Group を立ち上げて審議を進めることで了承された。
IEC/SC61C 冷蔵庫安全ウェリントン会議	ニュージーランド、ウェリントン Ministry of Business, Innovation and Employment	11月9日から12日の4日間	WG4 7カ国19名参加 MT1 7カ国18名参加 SC61C プレナリー 11カ国27名参加	佐々木宏 基準認証イノベーション技術研究組合	冷蔵庫安全技術委員会 SC61C が担当する規格は次の三つである。 ① 家庭用冷蔵庫規格である IEC60335-2-24 では、第 7.2 版の最終規格案が否決され、この対応について多くの時間を費やした。特に 30.2.4 項の冷蔵庫の難燃化要求について、一つの妥協点を DC 文書として発行し、第 7.2 版の早期規格化し、新たに追加審議された内容は、第 8 版で反映する。 ② コンプレッサー規格である IEC60335-2-34 では、TC61 国際議長から、試験において規格の不備を指摘、更にイタリアからは、小型のインバータが最新版の規格の要求する圧力が得られないなどの指摘がだされ、改定案を CDV とし、その他の案件についてもすべて CDV とし早期規格化を行う。 ③ 業務用冷蔵庫規格である IEC60335-2-89 では、審議案件すべて DC 文書とした。 この国際会議への派遣が（公財）JKA と（一財）日本規格協会の補助金で行われた。
ISO/TC189（セラミックタイル）国際会議	スペイン国セビリヤ市	2015年11月9日～11日	アメリカ、ブラジル、スペイン、インド、メキシコ、ドイツ、日本、オーストラリア、中国、カナダ、トルコ、イタリア、イギリス、イスラエル、ポルトガル	（株）LIXIL 網本浩二 セメダイン フィリピン（株）高橋正男（WG9 セクレタリー） セラヴィジョンカトウ（株）	・ WG9（Low modulus Adhesives for exterior tile finishing）では、昨年 8 月に行った DIS 投票にて、賛成多数により次のステップである FDIS 投票に移ることとなったが、DIS 投票時のコメントとして試験板体のセメントについて詳しく定義されていないことが米国より指摘されていたため、それについて追加・修正の内容を説明した。日本国内では板体にはポルトランドセメントが使用されているが、対応する ISO が存在しないため、定義にセメントを追加し、ASTM による板体でも使用可能とすることで

			計16カ国 65名	水澤秀木	合意が得られた。 今後のスケジュールとして、国内審議委員会にて規格案を最終修正した後、FDIS投票へ申請を行うこととした。順調に行けば、2016年半ばには規格化となる見込み。規格化期限は、2016年8月。 ・WG8 (Antimicrobial properties of ceramic tile surfaces) にて規格案のベースとなっているISO22196とISO27447の規格主要TC (TC61、TC206) に対し、事前にリエゾンとなるべく日本から働きかけ、正式にリエゾンとして参加することが本WGで了承された。
IEC PC 118 WG 1/WG 2 会合	アメリカ合衆国 バージニア州 ロスリン市 NEMA コンファ レンスセンター	2015年9月24日～25日	米国(8名)、中国(8名)、スイス、英国、インド、日本(各1名)	正畑 康郎 (株)東芝 研究開発統括部 技術企画室	・SEP2.0, OASIS EI, OpenADR2.0bのIS化に向けたコメント収集に対する米国応答案が審議され、ほぼ原案通り国際回覧されることとなった。 ・OASIS EIに使用された”62746-10-2”がIEC/TC57/WG21で使用予定で重複している問題につき、TC57公式リエゾンとしてWG21で使用予定であることを強く主張。結果、PC118側が諦める形で決着した。 ・OpenADR CIMアダプタ審議は順調に進捗中。
ISO TC 22/SC 38/WG 2 国際 会議	ドイツ ベルリ ン VDA	2015年11月26日、27日	イタリア・ANCMA 1名(コピ ナ)、 イタリア・CUNA 1名(セクタ リ)、 中国・CATARC 1名、 オーストリア・KTM 1名、 スイス・Park&Charge 1名、 ドイツ・EnergyBus 1名、 ドイツ・EnergyTube 1名、 韓国・KATECH 1名、 韓国・KNU 1名	高橋宏行(ヤマハ発動機 (株))	ISO 18246 (12/1にISとして発行)の改訂プロジェクトに関する日本提案をプレゼンし、日本が引き続きプロジェクトリーダーを務めることとなった。 ISO/DIS 18243についてはDIS承認以後の方針を協議したが、スイスから提出された150件を超えるコメントへの対応が出来ず、コメント中の技術的案を継続議論するために、プロジェクトリーダーを務める中国において2016年2月にアドホック会議を開催することとなった。そのアドホック会議の結果を、2016年5月開催予定の次回WG2会議で議論し次ステップへ進める。 その他、ISO/WD 19466はCD投票を、ISO 4106改訂についてはCIB(committee internal ballot)を、それぞれ実施することとなった。
ISO/TC 268/SC1/AHG 2	フランス/パリ	2015年10月5日	日本10名、中国2名、UK1名 FD1名、USA1名	岡 秀敏, 細川 寛	坂井主査より、AHG2としての提案の趣旨をスライドにて説明。 提案規格はできるだけ間口を広く取り、様々な手法(方法、手段)を対象とできるようにしたいということ、「最新のものはSmart」という概念ではなく、「その都市が抱える問題を解決するためのツールとしてのスマート交通」であることなどを説明。 参加各国より、各国の事情(都市の抱える問題など)の紹介があった。 質疑応答があり、NWIP投票に付すこととなった。
IEC/TC 120/WG 3	米国 ワシント ン DC	2015年11月16日、17日	米国、ドイツ、イタリア、フランス3人	東京電力 田代洋一郎	IEC/62935のCD原案の各章について議論。最重要な計画(6章)と設置(7章)について日本案を提示。一部修正議論もあったが、作成担当者として日本優位に進めることとなった。